

自らを律し、自ら主体的に、生涯にわたり学び続ける子ども

健康にして豊かな情操を持ち、想像力とたくましい実践力を身につけた人間(児童)の育成 『考える子・おもいやりのある子・やりぬく子』
優しい言葉遣い、自律と感謝

豊かな学びの現状
本市の7つの約束の観点からみると、昨年度は、朝ごはんの喫食率と、自ら課題解決に向けて取り組む児童の割合が、堺市の平均より高かった。しかし反面、家族との対話が減少し、スマホやゲームを1日1時間以上触っている児童が増えていることに課題がみられる。学力調査の結果からは、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題が見られた。算数科では、「思考・判断・表現」問4領域において平均を大きく回った。昨年度と同様に、データや資料を読み取る学習を意識的に行うことと、文章記述で表現する学習をさらに充実して取り組んでいく。『自ら学ぶ力』を高めるため、校内研修のテーマを「自分の考えを持ち、表現できる児童の育成」と設定し、取り組んでいる。

豊かな心・健やかな体の現状
・堺市平均より自分には良いところがある「人がこまっていると進んで助ける」「こまったことがあったとき、まわりの人に相談したり助けを求めたりできる」児童が少なく、「むしゃくしゃしたり、いらいらしたり、かたしりたりする」児童が多い。友だちと一緒に過ごすことが楽しいという児童は堺市平均を上回っている。人と助け合い、程やかに過ごせる児童を育成したい。
・本校児童は「外へ体を動かすことが好き」と答えた児童が堺市平均よりも高い学年が多いもの、筋力や運動能力にや課題がある。また新体力テストでも全国平均に届いていない種目もある。また、本校独自のアンケートでは、給食を楽しみにしている児童は多いものの牛乳やごはんに関しては残食が多いこともある。体育の授業で筋力、持久力を駆使しつつ、給食をしっかり食べることができるよう指導していきたい。

大項目	中項目	具体的取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～9月)	達成状況(年度末)	
							自己評価	学校関係者評価
確かな学びの向上	基礎学力の向上	●読書の習慣化にむけて、図書の時間に読書ノートを書く時間を設ける。国語教材で並行読書に取り組む。読み聞かせや読書週間を設ける。 ・100冊読破した児童に読書キングの称号を与え、校内放送で全校児童に知らせる。 ★ノート掲示に取り組む。ホームページなどで啓発する。 ・中、高学年で自主学習ノートに取り組ませる。 ★ノート掲示に取り組む。ホームページなどで啓発する。 ・学習意欲を向上させ、自主的に家庭学習に取り組むことができる子どもを育てる。	・「読書がすき」の肯定的意見70%以上。②③ ・「読書1日30分以上」30%以上。②	学校アンケート	年度末	○ 読書のノートに積極的に取り組む。図書の時間に読書ノートを記入する時間を、全学年確保している。週に1回の読書の時間を楽しみにしていく児童が多い一方、PTA行事のアンケート結果では読書1日30分以上を達成している児童は7%に留まっている。 ○ 「PTA行事」全国学力調査テストの「家庭での学習に楽しんで取り組んでいるか」という項目では、52%と目標を大きく下回った。 ○ 年度末まで少しでも数値が上がるよう、手立てを考えていく。 ○ PCの活用については、全学年が日々すぐに使える状態になっている。	○ 「学校アンケートでは、「読書がすき」の肯定的意見が71%を達成することができた。 ○ 「1日の読書時間が30分以上」の項目では9月の進捗状況では27%程度だったが、年度末の時点では45%引き上げることができた。 ○ 「家庭での学習」に進んで取り組んでいるかの項目では目標を大きく下回ってしまっていたが、年度末の時点では目標の80%を超え、88%にまで引き上げることができた。引き続き、次年度も進んで学ぶ意欲を高めていきたい。	A
	授業改善	・校内全体研修を年7回と公開授業(全員)を、行う。学年会を週1回、若手研修を月1回実施し、教材研究を行い、「見方・考え方の働く深い学びのある授業」をめざして取り組む。 ・研究授業後の協議会を通して、今後の授業づくりについて考えていく。 ・積極的に授業づくりに取り組み、自身の授業ををふりかえる。 ★すべての教科で「わかる授業」を実感させ、学習意欲の向上を図る。 ・「先生は、教え方を工夫し、分かりやすい授業をしてくれる。」の肯定的意見80%以上かつ否定的な意見1%以下。⑤ ・「自分からすすんで、授業に参加していますか」で肯定的意見75%以上。⑦ ・「話し合う活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」で肯定的意見75%以上。⑥	・「研究授業後の協議会を通して、今後の授業づくりについて考えていく。」 ・積極的に授業づくりに取り組み、自身の授業ををふりかえる。 ・「先生は、教え方を工夫し、分かりやすい授業をしてくれる。」の肯定的意見80%以上かつ否定的な意見1%以下。⑤ ・「自分からすすんで、授業に参加していますか」で肯定的意見75%以上。⑦ ・「話し合う活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」で肯定的意見75%以上。⑥	実践報告	各学期末	○ 「研究授業、授業後の協議会を通して、日々の授業をふりかえる機会になっている。また、公開授業にも積極的に取り組んでいる。 ○ 「わかる授業」をめざし、興味関心意欲を引き出す導入と、個に応じた指導を行い、主体的に児童が取り組むよう努力している。 ○ 「全国学力調査テストの「先生は教え方を工夫し、分かりやすい授業をしているか」の項目では肯定的意見が81%、否定的意見が1%未満となった。 ○ 「全国学力調査テストの「自分からすすんで授業に参加しているか」の項目では、75%が肯定的意見を持ち、学習に取り組んでいることが分かった。	○ 「学校アンケートの「先生は分かりやすい授業をしてくれているか」の項目では、目標を大きく上回り96%の児童が肯定的意見を示した。その要因としては、授業時間内に「発表する時間があること」や「考えをグループでまとめる時間があること」などが、結果として分かりやすい授業だという評価に繋がったのではないかと、アンケート結果から推察される。今後授業改善の視点を持ち、子どもたちを主体とした授業デザインを研究していく必要があると考える。	A
豊かな心・健やかな体	心の教育	・あらゆる教育活動を通じて、自尊感情や規範意識を醸成する。 ・人権に関する授業参観を年間10回行い、家庭と連携して子どもを育てる一助とする。 ・支援学級との交流を行い、違いを認め合える豊かな心を育成する。 ・学校全体で児童一人一人の誕生日を祝う(バースデーウィーク)を実施する。学校目標「自分を大切にし、他者を思いやろう」の力をつけるようにする。	・「自分には良いところがある」の肯定的意見70%以上。④ ・人権に関する授業参観を年間10回行えたか。 ・支援学級との交流を年間10回以上行えたか。 ・「思いやりの心」がもてた肯定的意見80%以上。⑮	学校アンケート 実践報告	年度末	○ 「人権に関する授業参観を過半数の支援校が終えている。 ○ 「支援学級との交流」は学年主体で、支援児童の実態にあった活動ができた。 ○ 「バースデーウィーク」の取り組みによって、学校目標の「自分を大切にし、他者を思いやろう」の力が少しずつついていく。パッチをつけている児童に対して、「おめでとう」という声は4月に比べ、増えてきている。声をかける児童が他者を思いやり、言われた児童は、自己肯定が高くなり自分を大切にできている。	○ 「人権に関する授業参観を全学級が実施した。 ○ 「支援学級との交流会も全学級が実施した。 ○ 「学校アンケートの「自分には、良いところがある。」の質問に対し、肯定的な意見だった児童は89.0%と目標を大きく上回っていた。去年度より上がっている。 ○ 「学校アンケートの「思いやりの心を持つ」の質問に対し、肯定的意見だった児童は88.7%だった。目標の80%を上回った。 ○ 「今年度は、新しい取り組みの「バースデーウィーク」を実施した。子どもたちの声からも「今日誕生日の仲間」「やっと思いやり」を肯定し、自己肯定が上がる発言が増えたと、子どもたちでも「おめでとう」「ありがとう」の声もあつた。結果的に数字が去年より上回った。	A
	豊かな心・健やかな体	★いじめの未然防止と早期発見により適切な対応に努める。 ・いじめ防止シートに則り、いじめの早期発見や未然防止に努める。 ・宮山台小学校いじめ防止対策基本方針の改定及び、全職員への周知の徹底を行う。 ・たてわり活動や異学年交流、学級会等を通じて、リーダー性や自主性を育て、自他のよさを認め合うことができるようにする。	・毎学期末の生活アンケートを元に個人面談を行い、互いを認め合う指導を行うとともに、早期発見・早期対応を行えたか。 ・「学級会活動やたてわり活動、行事などで、みんなと一緒に何かをするのは楽しい」の肯定的意見85%以上。⑪	生活アンケート	毎学期	○ 「1学期に行った生活アンケートの内容はもちろん、さいなみもことやクラスの様々な子との連絡体制が整い高まってきている。そのためトラブルなどもおこすことも、できる限り翌日に持ち越さずその日のうちに解決できている。また、いじめを未然に防止した教職員夏季研修を行い、いじめの早期発見や未然防止の意識を高められた。 ○ 「たてわり活動や異学年交流について、縦割り活動は現在まで3回実施した。その活動の中で、自己紹介をしたり、リーダーの6年生が考えた遊びをしたりすることができた。たてわり活動での掃除活動も行うことができた。絆を深める取り組みとしてきずなフープ(フープアプリー)を行う。 ○ 「朝の会や帰りの会、学習活動でクラスのよさや友達のよさを認め合う場面を作っている。	○ 「各学期に生活アンケートを行い、その内容に基づいて児童全員に聞きとりを実施した。トラブルやクラスの様子などの教職員の連絡体制が整っている。研修や会議によりいじめの早期発見や未然防止の意識が高まっている。そのためトラブルも起こすことも早期に対応できている。宮山台小学校に通う全員の児童が互いに認め合い安心安全に学校生活を過ごせるように教職員が見守りを続けていきたい。また、些細な変化に気づけよう今後取り組んでいきたい。 ○ 「学級会活動やたてわり活動、行事などで、みんなと一緒に何かをするのは楽しい」の肯定的意見93.4%であり、目標を達成できている。思いやりの活動にするために教職員でその活動の意義や内容について話し合いを重ねている。清掃やフラスアウトなどの活動でも感じられるようにたてわり活動では6年生のリーダーとして力を高まっている。グループをまとめたたてわり活動に慣れていく様子を見ていると微笑みかけた。また、全体活動では昨年度の反省を生かし、深まりのある活動にできた。様々な活動を通してさらに自他のよさを認め合うように取り組んでいきたい。	A
体力の向上	・体育の授業をはじめ、運動の日常化を図り運動への意欲を高め、体力や運動能力の向上に努める。 ・「的当てゲーム」や「逃走中」など、遊びを中心とした運動取り組みを体育委員会が中心となって実施していく。 ・食育や眼育を充実させ、児童の健康に対する意識を高めるよう、養護教諭・栄養教諭を中心に、全教職員で取り組む。	・「運動活動」が好きな子の肯定的意見90%以上。⑬ ・「早寝・早起きができている」の肯定的意見80%以上。⑯ ・「給食は楽しい。」の肯定的意見90%以上。⑳	学校アンケート	年度末	○ 「新体力テストの結果、堺市平均に対して男子は全日程中75%、女子は80%以上回ることができた。 ○ 「新体力テストの結果から、ソフトボール投げの記録が本校の課題として挙げられた。体育館的につくするなど、体育委員会「遊び」を通じた取り組みを考え、実施を予定している。 ○ 「給食に対する肯定的意見は、95%であり、高水準となっている。ランチルームの活用も続けながら、残食をなくしていくできるようにした。	○ 「体育委員会を中心に、なわとびの啓発や逃走中を企画し、遊びを通して体を動かした(なるよう取り組み)をすることができた。その結果、「運動が好きだ」の肯定的意見が88%であった。今後も、体育委員会以外から取り組みを考え、実施していきたい。 ○ 「保健委員会や毎月10日のはよねのデーを中心に、早寝、早起きの啓発を行った「早寝・早起き」ができていく」の肯定的意見は、73%であった。発表だけではなく、自分の睡眠時間を調べると、早寝、早起きに目を向けられるようになっていった。 ○ 「給食アンケートで「給食が楽しい」を選んだ児童は、12月には96%に増えた。残食に関しては82%が残さず食べることができている。	A	
信頼される学校	・地域人材を積極的に活用し、地域の中の学校づくりを進める。 ・中学校区で連携し、情報交換や学びの共有を行う。 ・「学校ホームページや校報・学年だより等を活用し、教育活動の現状と成果の発信に努める。	・ゲストティチャー等を活用した授業等を行う。 ・中学校区で連携し、情報交換や学びの共有を行う。 ・「学校ホームページや校報・学年だより等を通して、学校の様子がよくわかる」の肯定的意見90%以上。④	学校アンケート	年度末	○ 「生活科、社会科、総合学習などにおいて、地域人材を招き産業や文化・地域のはばらにに触れている。また、本物に触れることで、意識啓発はもちろん、より深い学びにつなげている。(コープセキのツツミさんやサトウ・ユウジさんやワグダンス・人権学習など) ○ 中学校区教員での合同研修を行い、中学校区でわが地域の子どもを育てようという気持ちを醸成している。また、小中交流授業を通して、中学生への内滑り進学も促している。 ○ 「毎日の生活活動の様子をHPにアップし、開かれた学校を実践しているとともに、行事などの取組みを発信している。	○ 「年間を通して、児童の学びに合わせた地域人材を招き、思いやりや生きやなど児童の人格形成における学びになる学習活動を行うことができた。(茶の湯体験・動物産物・車いすバスケット・社会福祉協議会・動物園訪問員など) ○ 中学校区で職員同士の連絡会や情報共有を行うことで、地域でつながり子どもたちを育てることに努めた。また、PTA活動において、スポーツ大会を行い交流し親睦を深めることができた。 ○ 「学校アンケートにおいて、91%が肯定的意見を示している。HPを見て子どもたちの生活の様子を知ったり、学校教育全般における理解や協力を得る良い機会となった。引き続き、開かれた学校運営が行っていただけるよう努めたい。	A	

校長より(年度末)
目標を達成できた項目が多く、評価者のみならず高評価をいただいた。また、昨年度の課題であった、学力向上については、「宮チャレ」をスタートさせ、家庭とともに取り組める工夫を行った。実施したことによる目に見えての変化は、これからだと考えが、少なくとも児童の学習への意欲を向上させることができた。また、今後も継続して児童が安心して学校生活を送ることができるように、「ワクワクする学校づくり」にも注力していきたい。

学校関係者評価者から(年度末)
子どもを育てていくのは、学校だけではなく、家庭や地域との関わりも重要。学校に6年間通って必要の力を付けてほしい。宮山台で育つという誇りをもって、成長してほしい。